九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[004] 学生法政論集表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/16947

出版情報：学生法政論集. 4, 2010-03-23. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

編集後記

審査してみると、内容の是非は別として、なかには論文の形式になっていないような作品もあります。確かに論文は通常のレポートとは違った難しさがありますが、せっかく自分でテーマを探したらゼミの先生の指導を受けるなどして、きちんとしたものに仕上げられれば、自分としての充実感も高まるのではないかと思います。（MMK）

各論文とも、じっくりと考えられた末の苦労の結晶です。学問的刺激を受けた箇所も多くありました。自分の頭で物事を良く考え、それを文章で表現するという作業は、これからの人生でも常に必要とされます。どうか皆さんの将来に、今回の執筆経験が活かされますように。（A. E.）

読んだことを正確に理解することに加えて、自分の頭の中にあることを表現する作業に取り組み、苦しむことは必ず将来につながります。みなさんの今後の大いなる発展を祈念します。（ＩＲ）

学生法政論集の編集に初めて携わりました。自分の学生時代には、ゼミ論文を熱心に書いても、このような形で公表できる場がありませんでしたので、うらやましく思います。（ＫＴ）

レポートと論文の違いを、意識してほしいと思います。レポートは、課されたミッションのために、必要な情報を調査して、過不足なく示すことができれば十分です。これに対して、論文は、自分の発見や主張を明らかにするという動機により、粘り強く論証し、読者を説得する作業です。提出された論考は、全体的に、論文を書こうとする意気込みや迫力が、やや弱いような気がしました。来年も、ぜひ頑張ってください。（酢）

掲載された人も、掲載されなかった人も、書く悦びを感じる貴重な機会になったのではないかと思います。今後も、自らの考察を、根拠にもとづいて論理的に書くという作業を継続してもらえればと、期待しています。（爺）

『学生法政論集』第５号（平成23年３月発行予定）の募集につきましては、「九州大学法政学会ホームページ」および「法学部ホームページ」にてお知らせします（６月下旬予定）。